

4 霧ヶ峰エコツーリズムモデル構築計画

(1) 霧ヶ峰におけるエコツーリズムの意義

ア エコツーリズムとは

エコツーリズムとは、自然環境や歴史・文化を対象として、旅行者がガイドに案内や助言を受け、自然や歴史資源の保護に配慮しながらふれあい、学び、知る活動（またその考え方）のことである。

また、エコツーリズムの考え方を実践するためのツアーがエコツアーであり、次の例のように様々な形態が考えられる。

- ・ ガイドツアー、トレッキングツアー
 - ・ 野生動植物をはじめとする自然の観察
 - ・ 地域の歴史や暮らし、文化を訪ね、地域の人たちと触れ合うウォーキング、交流会
 - ・ 自然や歴史資源の保全活動への参加体験
 - ・ 自然にゆったりと身をゆだねながら、以上のような体験をする滞在型観光
- なお、エコツーリズムの法的定義や基本理念に関する資料を 112 ページと 113 ページに掲載した。

イ インタープリテーションとは

インタープリテーション（Interpretation）という言葉は、直訳すれば、「通訳すること」を意味する。

自然や歴史・文化のガイドにおいて、インタープリテーションとは、その地その地の自然界の事象や歴史・文化をわかりやすく人々に伝え、それらと触れ合う体験を通じて、自然、歴史・文化を理解し感動を分かち合う「解説活動」であるとされている。すなわち、「対象となる自然や歴史・文化を、体験を通じて、事物や事象の背景にある意味や相互の関係、あるいは自然の大原則を解き明かし、人々に興味を起こさせるもの」といえる。（『実践講座インタープリテーション』財団法人日本交通公社 平成 14 年 5 月）

また、インタープリテーションを提供する人が、インタープリターである。

ウ 霧ヶ峰でエコツーリズムを展開することの意義

霧ヶ峰の利用に関しては、利用者が夏期に集中していること、また、車山肩、八島ヶ原湿原及び両所を結ぶ遊歩道等特定の箇所に利用が集中することにより、自然への負荷が大きくなっている状況がある。また、霧ヶ峰の自然の保全再生のためにいかに多くの人々に参加してもらうかが課題である。加えて、霧ヶ峰の観光の現状は端的にいえば「通過型」であり、観光客の滞在時間は短く、霧ヶ峰に宿泊する人の宿泊数も 1 泊がほとんどであるとみられ、滞在時間及び宿泊数の増と一人当たり観光消費額の増が霧ヶ峰地域の観光再生には必要である。なお、霧ヶ峰の観光統計は 26 ページから 29 ページに掲載したとおりである。

エコツーリズムの推進には、エコツアーの多様で魅力的なコース・プログラムを開発・活用することにより特定の季節や場所に偏らない利用客の受入れを促進し自然への負荷を軽減する効果、自然への理解促進の効果、保全再生活動への参加促進効果といった自然環境保全に役立つ側面と、霧ヶ峰の観光の魅力と付加価値を高め、ひいては滞在時間・宿泊数と観光消費額の増加に結びつき、地域経済再生に役立つ側面とがある。

このように、一般論としてエコツーリズムは霧ヶ峰の再生に役立ち、またその展開が必須と考えられるが、エコツーリズムは全国各地で展開されているものであり、それらとの競合関係が生じることを前提に考えれば、霧ヶ峰にしかない資源を生かし、いかに「霧ヶ峰ならではの」のエコツーリズムを構築し、展開していくかが重要になる。

(2)以下に、その諸方策をまとめた。

エ 霧ヶ峰のエコツアーの魅力

霧ヶ峰は、人と自然の長い関わりによって形作られてきた。霧ヶ峰は全国的にも希少な広い草原に本州最南端の高層湿原と原生的な林としての樹叢が点在する独特の自然景観と、独自の生態系、貴重な野生植物など、エコツアーの素材として非常に優れた自然資源を有している。また、人と霧ヶ峰の関わりは旧石器時代にまでさかのぼり、豊富な歴史資源が存在する。旧石器時代から縄文時代にかけての黒曜石加工の遺跡群及び鎌倉時代の盛大な御射山祭を偲ばせる旧御射山遺跡は、それ自体の価値に加え、霧ヶ峰が古くから全国各地との結びつきを持っていたことに思いを馳せる手がかりになるものである。加えて、周辺集落の人々による近世以降の本格的な採草により完成された霧ヶ峰の草原は、自然資源であるとともに歴史・文化資源でもある。

このように、霧ヶ峰は、

- * 草原空間と湿原、樹叢が織り成す多様な自然の容貌（かお）と彩り
- * 人と自然の深い関わり
- * 古代から中世、近世、現代へと連なる歴史、時空の広がり

など、ここにしかない多くの魅力を有しており、エコツーリズムの展開に最適の地である。

また、霧ヶ峰は、やさしく人を迎え入れる草原空間であり、霧ヶ峰の自然や非日常的な空間だけが与えてくれる安らぎ、安心感、共感を提供できることから、これらを組み合わせることにより霧ヶ峰ならではのエコツーリズムが展開できる。

さらに、霧ヶ峰周辺には、美ヶ原、蓼科高原、八ヶ岳、諏訪湖等があり、それらとの広域連携により、霧ヶ峰のエコツアーの魅力はさらに高まるものと期待される。

エコツアーリズムとは

エコツアーリズムの法的定義

観光旅行者が、自然観光資源（ ）について知識を有する者から案内又は助言を受け、当該自然観光資源の保護に配慮しつつ当該自然観光資源と触れ合い、これに関する知識及び理解を深めるための活動（エコツアーリズム推進法第2条第2項）

つまり

自然環境や歴史文化を対象とし、それらを体験し学ぶとともに、対象となる地域の自然環境や歴史・文化の保全に責任を持つ観光のあり方のこと

（第2回霧ヶ峰自然環境保全協議会 資料12再掲）

つまり

旅行者が、ガイドに案内や助言を受けて、自然観光資源の保護に配慮しながら、ふれあい、学び、知る活動（またその考え方）のこと

エコツアーリズムの基本理念（同法第3条）

自然環境 への配慮

観光振興 への寄与

地域振興 への寄与

環境教育 への活用



環境保全と観光振興と地域振興の3つを同時に実現

自然観光資源（エコツアーリズム推進法第2条第1項）

動植物の生息地又は生育地その他の自然環境に係る観光資源

自然環境と密接な関連を有する風俗慣習その他の伝統的な生活文化に係る観光資源

(参考)

エコツーリズム推進法 (平成19年6月27日法律第105号 平成20年4月施行)

(定義)

第二条 この法律において「自然観光資源」とは、次に掲げるものをいう。

- 一 動植物の生息地又は生育地その他の自然環境に係る観光資源
- 二 自然環境と密接な関連を有する風俗慣習その他の伝統的な生活文化に係る観光資源

2 この法律において「エコツーリズム」とは、観光旅行者が、自然観光資源について知識を有する者から案内又は助言を受け、当該自然観光資源の保護に配慮しつつ当該自然観光資源と触れ合い、これに関する知識及び理解を深めるための活動をいう。

3 この法律において「特定事業者」とは、観光旅行者に対し、自然観光資源についての案内又は助言を業として行う者(そのあっせんを業として行う者を含む。)をいう。

4 (略)

(基本理念)

第三条 エコツーリズムは、自然観光資源が持続的に保護されることがその発展の基盤であることにかんがみ、自然観光資源が損なわれないよう、生物の多様性の確保に配慮しつつ、適切な利用の方法を定め、その方法に従って実施されるとともに、実施の状況を監視し、その監視の結果に科学的な評価を加え、これを反映させつつ実施されなければならない。

2 エコツーリズムは、特定事業者が自主的かつ積極的に取り組むとともに、観光の振興に寄与することを旨として、適切に実施されなければならない。

3 エコツーリズムは、特定事業者、地域住民、特定非営利活動法人等、自然観光資源又は観光に関し専門的知識を有する者等の地域の多様な主体が連携し、地域社会及び地域経済の健全な発展に寄与することを旨として、適切に実施されなければならない。

4 エコツーリズムの実施に当たっては、環境の保全についての国民の理解を深めることの重要性にかんがみ、環境教育の場として活用が図られるよう配慮されなければならない。

法律の目的

エコツーリズム推進法は、地域で取り組むエコツーリズムに関する総合的な枠組みを定めた法律です。エコツーリズムを通じて、我が国の自然環境を保全し、後世に伝えていくことをはじめとして、国民の健やかで文化的な生活を実現することを目的としています。

成立の背景

- 環境問題への関心の高まり
- 観光(過剰利用)による自然への悪影響 (踏み荒らし、ごみ散乱、混雑等)

推進の枠組

- 国がエコツーリズムの推進に関する基本方針を策定
エコツーリズム推進基本方針 ~ “たび”と創る持続的な地域社会を目指して~
(平成20年6月6日閣議決定)
- 地域ぐるみの推進体制を構築
市町村がエコツーリズム推進協議会を組織
(茅野エコツーリズム協議会 平成20年6月発足)

(2) この計画の位置づけ

この計画は、霧ヶ峰の自然の保全再生と地域経済（観光）の再生に不可欠な要素であるエコツーリズムの、霧ヶ峰における健全な発展を促すための基本計画である。

霧ヶ峰におけるエコツーリズムの健全な発展は、エコツアー実施団体やインタープリターの創意工夫、切磋琢磨、自己研鑽を基礎に各団体が展開する質の高いエコツアー、インタープリテーションなしにはありえないことを基本認識とした上で、霧ヶ峰のエコツアーの質の維持・向上のために霧ヶ峰全体で共有すべきこと、各団体やインタープリターの活動を支援するために行うべき体制整備の2点について整理し、いかに「霧ヶ峰ならではの」のエコツーリズムを構築していくかをまとめたものである。

したがって、この計画は、霧ヶ峰自然環境保全協議会が自らエコツアーを催行したり、エコツアー実施団体やインタープリターの活動に規制を加えたりすることを意図するものではなく、この計画に盛り込まれた霧ヶ峰自然環境保全協議会の合意事項を共有しつつ、個別の実施団体やインタープリターがその活動の質を高め、活動を発展させていくことを通じ、霧ヶ峰のエコツアーが発展することをねらっている。また、全国各地のエコツアーとの競合を見据え、一般論としてのエコツーリズムの展開にとどまるのではなく、「霧ヶ峰ならではの」のエコツーリズムモデルを構築すべく、霧ヶ峰に即した各論で計画を構成している。

上記の二つの構成要素別に分類すれば、

霧ヶ峰のエコツアーの質の維持・向上のために共有すべきこととして

霧ヶ峰のエコツアーが全国において占めるべき位置及び対象客の整理

霧ヶ峰インタープリテーション指針

各団体やインタープリターの活動を支援するために行うべき体制整備として

エコツアー実施団体がプログラムを開発する際の参考にしてもらうための、季節や日数に応じたコース・プログラムの例示

エコツアーの実施体制の整備方針

情報提供・情報発信体制の整備方針

の5項目から、本計画は構成されている。

これら5項目の関係を、115ページに図示したが、訪れる人に霧ヶ峰の文化の厚みを肌で感じてもらうには、エコツアー実施団体やそこで活動するインタープリターのみならず、地域の人みんなが霧ヶ峰をよく知り、霧ヶ峰への思いを自らの言葉で語るができるという意味で“インタープリター”であることも必要である。

霧ヶ峰エコツーリズムモデル構築計画構成要素の相互関連

体制整備

《各団体の取組みの支援のために》

エコツアー実施体制の整備

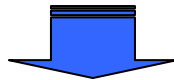
- ・ 団体の相互連携、情報収集
- ・ エコツアー参加者とエコツアー実施団体のコーディネート
- ・ インタープリターの募集、養成 等

情報提供、情報発信体制の整備

- ・ ポータルサイトの開設（各団体の情報を発信）
- ・ 霧ヶ峰のエコツアーの全国発信、営業の促進 等

季節や日数に応じたコース・プログラムの例示

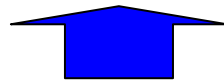
各団体が独自の工夫を加えて実施することにより、プログラムの幅の拡大、魅力向上に活用



基本は、エコツアー実施団体の

創意工夫、切磋琢磨

霧ヶ峰の人みんなが
インタープリター



団体間の共有

《霧ヶ峰のエコツアーの質の維持・向上のために》

霧ヶ峰のエコツーリズムが全国において占めるべき位置及び対象客

霧ヶ峰インタープリテーション指針

（必要最小限のルール）

(3) 霧ヶ峰のエコツアーが全国において占めるべき位置及び対象客

霧ヶ峰ならではのエコツーリズムモデルを構築するため、霧ヶ峰の自然、歴史・文化資源の特性を踏まえ、霧ヶ峰のエコツアーが全国において占めるべき位置（ポジショニング）及び対象客（ターゲティング）を検討し、117 ページに示した。

これらを明確にし、エコツアー実施団体やインタープリターが共有することにより、霧ヶ峰の自然、歴史・文化資源の価値を高めるべくエコツーリズムを展開することが可能になるものであり、また、いたずらに霧ヶ峰を俗化させることのないように配慮するものである。

霧ヶ峰におけるエコツーリズムは、117 ページの図のX軸に示した豊富な資源、高い知名度、地の利といった所与の条件とY軸に示した一般的なエコツーリズムの手法の組合せにより形成されるエコツーリズムの平面的な実施にとどまらず、Z軸で示した霧ヶ峰独自の機軸を必須の要素として加えることにより、霧ヶ峰の本質に迫り、深みをもって多次元的（Z軸は、霧ヶ峰の空間軸でも時間軸でもある）に展開することを目指す。

117 ページでいう「霧ヶ峰ならではの非日常的空間」とは、現時点においてそれ自体が貴重な価値を有する自然、歴史・文化遺産が存在する空間というだけでなく、その背後にある、霧ヶ峰を形作った人と自然の関わり、自然の諸要素の相互作用、人と人の交流、土地と土地の結びつきなど霧ヶ峰を表面的に見ただけではわからないことがら、長い歳月の間に熟成され、霧ヶ峰の時間と空間に様々な意味を与え、いくつもの文脈を育み、人々を、時空を超えた想像と思索と自らの心の扉を開く発見の旅へと誘う空間である。

そしてそれは、草原を基調にし、穏やかで人の心を安らかにする表情をもっており、人をやさしく迎え入れる空間である。

また、このような霧ヶ峰の特性を踏まえ、核となるエコツアープログラムの対象客としては、「少人数グループ（霧ヶ峰に滞在して、その空間にゆったりと身を置き、霧ヶ峰の非日常性を満喫したい人）」を位置付けた。これを軸にしつつ、その特長を生かしながら、修学旅行、林間学校、自然学習等の様々な派生型のプログラムを展開、発展させることにより、霧ヶ峰のエコツーリズムは霧ヶ峰の特性を生かしつつ、霧ヶ峰の活性化につながるものになると考える。

もとより、霧ヶ峰の自然は、格別のガイドを受けなくとも霧ヶ峰を訪れる人を十分魅了する力を持っており、また、「霧ヶ峰保全再生計画」と「霧ヶ峰“彩り草原空間”形成・施設整備基本構想」に基づく取組みにより霧ヶ峰の魅力が維持、向上されることとあいまって、エコツアーに参加する人にとっても参加しない人にとっても霧ヶ峰の価値はいつそう高まるものと考えられるが、エコツーリズムの展開により、より奥深い霧ヶ峰に出会い、分け入り、霧ヶ峰を極めてもらうことができる。これにより、多くの人々が霧ヶ峰を理解し、愛着を持ち、何度も霧ヶ峰を訪れ、滞在し、その保全再生にも参加してもらうことにつながることを期待する。

霧ヶ峰のエコツーリズムが全国において占めるべき位置及び対象客

< 占めるべき位置の検討 >

新機軸（Z軸）の導入

Z軸

霧ヶ峰独自の機軸

（霧ヶ峰の自然や非日常的な空間だけが与えてくれる安らぎ、安心感、共感）

霧ヶ峰ならではの非日常的空間

草原を基調にした人をやさしく迎え入れる空間

歩く人に思索をさせる空間

草原、湿原、樹叢が織り成す多様な自然の容貌

霧ヶ峰にしかなく霧ヶ峰でこそできるもの。

エコツアーを別の側面から捉え、安らぎ・安心感・共感を提供するインタープリテーションを行うことで、他の追従を許さないものとなりうる。

Y軸

エコツーリズムの推進による霧ヶ峰の活性化

プログラムの充実

内容に見合った参加料の徴収

担い手育成、技術・ノウハウの向上

改善・充実すべき部分は多くまた重要だが、他地域でも同様の取り組みは行っており、決定打にならない。

改善できる条件もあるが、基本的には所与の条件ととらえ、これを生かす方法を考える。

X軸

所与の条件

豊富な資源（自然環境、自然と人との関わりによって形成されてきた空間の歴史）

高い知名度

地の利

霧ヶ峰のエコツーリズムが全国において占めるべき位置

霧ヶ峰独自の機軸（Z軸）を明確にすることにより、他地域が取り組む一般的なエコツーリズムの推進（Y軸）にとどまらず霧ヶ峰のエコツーリズムならではの付加価値のある旅を提供する。

具体的には、霧ヶ峰の自然や非日常的な空間だけが与えてくれる安らぎや安心感を生かしたエコツーリズムの展開であり、それにより自然や歴史の知識だけでなく、“実感”として「自然への共感」「人への共感」「自分への共感」が得られ、満ち足りた気持ちになり、日常生活のエネルギーを持ち帰っていただく旅を提供する。

エコツアー対象客

核となるプログラム

少人数グループ（霧ヶ峰に滞在して、その空間にゆったりと身を置き、霧ヶ峰の非日常性を満喫したい人）

核になるプログラムの特長を生かしながら提供する派生型のプログラム

- ・ 修学旅行生
- ・ 夏期林間学校生
- ・ 地元小中学生の自然学習 等

(4) 霧ヶ峰インタープリテーション指針

霧ヶ峰インタープリテーション指針は、霧ヶ峰でインタープリテーションを行うエコツアー実施団体やインタープリターに共有してほしいものとして、インタープリテーションを実施する際の心構え、態度や安全の確保、知識・技術の習得・向上等について、必要最小限の項目をまとめたものである。

その内容は、119 ページと 120 ページに掲載したとおりであるが、これらの項目を共有することを通じ、霧ヶ峰のエコツアーに参加する人に、安全で、質の高いインタープリテーションがすべてのプログラムにおいて提供されることを期待するものである。

今後、霧ヶ峰のエコツーリズムが発展、深化していくのに伴い、関係団体やインタープリターが協議、検討し、この指針の内容も発展、深化していくことを望む。

霧ヶ峰インタープリテーション指針

1 お客様に伝えたい霧ヶ峰にしかないもの

(1) 霧ヶ峰の魅力

- * 草原空間と湿原、樹叢が織り成す多様な自然の容貌（かお）と彩り
- * 人と自然の深い関わり
- * 古代から中世、近世、現代へと連なる歴史、時空の広がり

(2) エコツアーのお客様に感じ、持ち帰っていただきたいもの

- * 霧ヶ峰の自然や非日常的な空間だけが与えてくれる安らぎ、安心感、共感
= 自然への共感、人への共感、自分への共感、インタープリターへの共感
- * それを通じ、自然と人の関わり、人と人の関わりに心を開き、そこから心身に満ちてくるものの実感を日常生活の糧として持ち帰っていただく。

(3) 「知る」から「腑に落ちる」、そして思索へ

霧ヶ峰の自然・歴史に関する知識を、お客様に頭で理解していただくだけではなく、霧ヶ峰の空間と現場の素材を活かし、深い知識とインタープリテーションの技術を駆使して、腑に落ちる」感覚を提供する。

より本格的なプログラムに参加する人には、思索しながら歩くことを通じ霧ヶ峰のもっと深い魅力を感じてもらい、霧ヶ峰を繰り返し訪れたり、霧ヶ峰のために活動していただくきっかけとする。

2 お客様が満足し、リピーターになっていただくためのインタープリターの心構え

(1) 期待を超える満足の提供

リピーターとなるお客様は、「期待を超える満足」を感じた人である。
お客様の感じている「これくらいの値段ならこれくらいのサービスだろう」を、すべてのプログラムで超えることを心がける。

(2) 自己研鑽

- * 霧ヶ峰の自然（地勢、気象、動植物等）、歴史、人文などについて学び、深く理解する。
- * お客様の気持ちを深く理解する力を磨く。
- * 自然・歴史と人の仲立ちをし、霧ヶ峰の言葉をお客様に伝え、楽しませるインタープリテーションの技術とホスピタリティを磨く。

(3) 情熱の持続

お客様に楽しんでいただきたい、霧ヶ峰の魅力を伝えたいという情熱をもち続ける。

3 霧ヶ峰に対するインタープリターの態度

(1) 基本は霧ヶ峰に対する「愛情」

霧ヶ峰の自然・歴史に対する「愛情」が基本である。

(2) 霧ヶ峰の保全に寄与する

霧ヶ峰の自然・歴史を広く深く理解し、伝え、あるいは霧ヶ峰の保全活動とのコーディネートを通じ、自然と歴史・文化遺産の保全に寄与する。

(3) 地域と連携し地域経済に寄与する

霧ヶ峰地域の人たちとの連携、相互理解に努めながら、エコツーリズムが関わることによって霧ヶ峰の資源を活かす活動を推進し、両者の好循環をもたらして、地域経済に寄与する。

4 安全の確保

- * お客様の安全の確保は最も重要な事項であると認識する。
- * 安全確保と危機管理のためのマニュアルを、提供するコース、プログラムに応じ、エコツアー実施団体が整備する。
- * 霧ヶ峰地域としても、安全確保と危機管理の指針を検討する。

5 知識の習得と技術の向上のために

(1) 伝えたいこと、お客様が知りたいことを学び取る

「お客様に何を伝えたいか」、「お客様が何を知りたいか」を常に考えながら、お客様が期待するレベルを超えてそれらを提供するための知識と技術を、様々な機会を通じて自ら学び取る。

(2) 霧ヶ峰の本質を捉え、正しい知識を習得し、伝える

霧ヶ峰を表層で見るのではなく、地域の人と交流したり、インタープリター同士が相互研鑽の場を設けたりして、霧ヶ峰の本質を理解し、正しい知識を習得して、すべてのインタープリターがそれを等品質でお客様に伝えられる環境を築く。

(3) 文脈や物語で伝える

細切れの知識としてお客様に伝えるのではなく、いろいろな視点から整理し、意義付けをしながら、文脈や物語性をもって伝える。

(5) 季節や日数に応じたコース・プログラムの例示

霧ヶ峰で提供されるエコツアーのコース・プログラムは、それを実施する個別の団体やインタープリターの創意工夫と切磋琢磨により質が向上し、参加者の満足度を高めるものになっていくと考えられるが、各団体、インタープリターがコース・プログラムを開発する際の参考となるよう、考えられるコース・プログラムのいくつかを、類型別に 122 ページから 127 ページに例示した。

霧ヶ峰で考えられるエコツアーの類型としては、「自然や歴史を知る、訪ねる」ためのものと「参加・体験する（火入れ、草刈、雑木処理、外来種除去など）」ためのものの 2 つに大別され、それぞれ参加者がどの程度の深みを求めるかによって、多くのコース・プログラムが考えられる。

また、128 ページ以下には、参考として、「エコツアーの所要時間に応じた実施項目の例」、「実施時期に応じた実施項目の例」、「関係者との連携の例」、「ストーリー性を持たせたプログラムの例」、「エコツアーの様々なかたち」を例示した。

霧ヶ峰は、人と自然の長い関わりによって形作られてきた。霧ヶ峰は全国的にも希少な広い草原に本州最南端の高層湿原と原生的な林としての樹叢が点在する独特の自然景観と、独自の生態系、貴重な野生植物など、エコツアーの素材として非常に優れた自然資源を有している。また、人と霧ヶ峰の関わりは旧石器時代にまでさかのぼり、豊富な歴史資源が存在する。旧石器時代から縄文時代にかけての黒曜石加工の遺跡群及び鎌倉時代の盛大な御射山祭を偲ばせる旧御射山遺跡は、それ自体の価値に加え、霧ヶ峰が古くから全国各地との結びつきを持っていたことに思いを馳せる手がかりになるものである。加えて、周辺集落の人々による近世以降の本格的な採草により完成された霧ヶ峰の草原は、自然資源であるとともに歴史・文化資源でもある。

このように、霧ヶ峰は、

- * 草原空間と湿原、樹叢が織り成す多様な自然の容貌（かお）と彩り
- * 人と自然の深い関わり
- * 古代から中世、近世、現代へと連なる歴史、時空の広がり

など、ここにしかない多くの魅力を有しており、エコツーリズムの展開に最適の地である。

例示したコース・プログラムは、こうした霧ヶ峰の魅力を基に展開されるものである。

また、これらに共通する機軸として、霧ヶ峰ならではのエコツアーの必須条件である、「霧ヶ峰の自然や非日常的な空間だけが与えてくれる安らぎ、安心感、共感」が位置付けられる。

季節や日数に応じたコース・プログラム例

1 霧ヶ峰で考えられるエコツアーの類型

共通事項	類型	深み
霧ヶ峰ならではのエコツアーの必須条件 II 霧ヶ峰独自の機軸() 霧ヶ峰の自然や非日常的な空間だけが 与えてくれる安らぎ、安心感、共感	自然や歴史を知る、訪ねる	霧ヶ峰と出会う
		霧ヶ峰に分け入る
		霧ヶ峰を極める
	参加・体験する (火入れ、草刈、雑木処理、 外来種除去など)	霧ヶ峰と出会う
		霧ヶ峰に分け入る
		霧ヶ峰を極める

2 霧ヶ峰において考えられるエコツアーのコース・プログラム(例)

【自然や歴史を知る、訪ねる】

霧ヶ峰と出会う

霧ヶ峰における季節を早春(4月下旬～5月連休)、春(5月中旬～6月)、夏(7・8月)、秋(9・10月)、冬(11～4月中旬)と分類した。

季節	所要時間	名称	内容	起点	コース	終点
通年	～1時間	朝日を見る	日の出を見る。 日の出だけでなく、明け行く空と朝露にぬれた草原を鑑賞する。	東に開けた場所(車山、富士見台など)	起点に同じ	起点に同じ
通年	～1時間	夕日を見る	夕日を見る。 日没だけでなく、星が出るまでの変化(概ね日没から30分程度)を楽しむ。	西に開けた場所(ピーナスの丘、八島駐車場、車山)	起点に同じ	起点に同じ
通年	～3時間	諏訪と霧ヶ峰	諏訪市博物館等で、学芸員の方から諏訪と霧ヶ峰の関わりについて学習する。(歴史、文化、経済)	諏訪地域の博物館等	-	-
早春・春・夏・秋	～1時間	座学	ビジターセンターで霧ヶ峰の概要、動植物や問題点等について簡単に説明。必要に応じビデオ等の上映も行う。	ビジターセンター	-	-
早春・春・夏・秋	～1時間	ガイドウォーク	インタープリターと五感を使って霧ヶ峰を楽しむ。	霧ヶ峰自然保護センター	園地周辺 忘れ路の丘 ～薙鎌神社	起点に同じ
早春・春・夏・秋	～1時間	ガイドウォーク	インタープリターが自然の魅力をわかりやすく説明する。	八島ビジターセンター	八島ヶ原湿原	起点に同じ
早春・春・夏・秋	随時	ビジターセンター学習会	3ビジターセンターそれぞれにあるプログラムを体験してもらう。	各ビジターセンター	-	-

季節	所要時間	名称	内容	起点	コース	終点
夏	随時	お茶会	霧ヶ峰のおいしい「水」を使っていれたお茶を楽しむ。 霧ヶ峰や美ヶ原で増加しているクマザサをお茶の葉代わりにして入れる。	木陰と草地に入れるところ	-	-
冬 (積雪期)	～1時間	スノーシューガイドウォーク	インタープリターと雪原を歩き、夏とは違う霧ヶ峰の楽しさを体感する。	強清水スキー場	忘れ路の丘～薙鎌神社	起点に同じ
冬 (積雪期)	～1時間	冬山の展望	冬の車山に車山高原スキー場のリフトを使って上り、冬山の楽しさ、厳しさ及び冬の澄んだ空気により開けた景色を見る。	車山スキー場	車山頂上	起点に同じ

霧ヶ峰に分け入る

季節	所要時間	名称	内容	起点	コース	終点
通年	～2時間	フルムーンミーティング	月明かりに照らし出される八島ヶ原湿原を散歩。	民間宿泊施設	八島ヶ原湿原	起点に同じ
春・夏・秋	～2時間	景色と歴史	景観を楽しみ、気象観測所としての歴史を持つ車山を知る。	車山肩	車山肩～車山頂上	起点に同じ
春・夏・秋	～2時間	穴場を歩く	夏でも人の少ない踊場湿原をゆっくりと歩く。	池のくるみ	踊場湿原周回	起点に同じ
春・夏・秋	～2時間	夕焼けウォーク	霧ヶ峰が1日の中で最も変化する時間であり、なおかつ心が落ち着く夕方～日暮れにかけて自然と自己の気持ちの変化を感じる。	車山肩	車山肩～ゴマ石山	起点に同じ
春・夏・秋	～2時間	夕焼けウォーク	霧ヶ峰が1日の中で最も変化する時間であり、なおかつ心が落ち着く夕方～日暮れにかけて自然と自己の気持ちの変化を感じる。 加えて夕暮れに変化する湿原の風景を知る。	八島ビジターセンター	八島ヶ原湿原周回	起点に同じ
春・夏・秋	～2時間	鎌倉武士と諏訪神社	あまりエコツアーで触れることの無い霧ヶ峰の「歴史」を題材とし、昔と現在は繋がっていることを感じ取る。	沢渡	沢渡駐車場～旧御射山神社～棧敷跡	起点に同じ
春・夏・秋	～3時間	トレッキング	霧ヶ峰の中でも最も「霧ヶ峰」らしさ(草原、湿原、樹叢)を楽しめるコースをガイドを受けながら歩く。	車山肩 又は八島駐車場	車山肩～車山乗越～蝶々深山～物見石～鎌ヶ池～八島駐車場 (八島駐車場発の場合は逆コース)	八島駐車場 又は車山肩

季節	所要時間	名称	内容	起点	コース	終点
春・夏・秋	～ 6時間	たっぷり霧ヶ峰	時間をかけて歩くことで、様々な姿を見せる霧ヶ峰を見てもらう。 人の少ない外輪山コースを歩き、静かで開放感ある霧ヶ峰を感じてもらう。	車山肩又は八島駐車場	車山肩～車山乗越～南の耳～北の耳～ゼブラ山～鎌ヶ池～八島ヶ原湿原～沢渡～車山肩（八島発の場合は逆コース）	八島駐車場又は車山肩
春・夏・秋	～ 6時間	3湿原歩き	霧ヶ峰にある3つの湿原を歩き（湿原間の移動は車）それぞれの成り立ち（物語）とそこに生きる動植物などを知り、湿原の存在がかけがえの無いものであることを認識してもらう。	3湿原の駐車場いずれか	3湿原を順番に	起点に同じ
春・夏・秋	6時間～	歴史ウォーク	霧ヶ峰にまつわる様々な話（旧御射山神社の話、神事の話、伝説・民話、おもしろい地名等）を歩きながら回る。	-	-	-
春・夏・秋	6時間～	霧ヶ峰の道をたどる	縄文の道（和田峠～八島）里への道（八島～男女倉）中世への道（旧御射山）等先人がたどった道を歩く。	-	-	-
春・夏・秋	随時	人と歌をたずねて	霧ヶ峰にあるゆかりの人の石碑や歌碑をたずね、人のつながりとその思いを知る。	-	-	-
春・夏・秋	随時	黒曜石ウォーク	長和町の黒曜石ミュージアムで縄文時代の黒曜石とそれにまつわる当時の文化・経済について学ぶ。	長和町黒曜石ミュージアム	黒曜石の露頭している場所ややじり等の発見されている場所	-
夏	～ 2時間	ナイトウォーク	昼間の喧騒が去り、闇と野生動物の世界となる夜の霧ヶ峰を感じる。	強清水スキー場	強清水スキー場～諏訪市営キャンプ場周辺	起点に同じ
冬	～ 2時間	スキーで歩く	アルペンスキーとは違う「歩く」スキーを体験する。	強清水スキー場	強清水スキー場	起点に同じ
冬	～ 3時間	冬の八島ヶ原湿原めぐり	夏にぎわう八島ヶ原湿原の別の側面を見る。生物は見られないが、草原や湿原は生きていることを認識する。	八島駐車場	八島ヶ原湿原一周	起点に同じ
冬	6時間～	バックカントリースキー体験（ロングコース）	積雪期に障害物の少ない霧ヶ峰をスキー（クロスカントリースキー、テレマークスキー）で歩く。	霧の駅駐車場	園地～ゴマ石山～車山肩～車山乗越～蝶々深山～物見石～八島ヶ原湿原～沢渡～ゴマ石山～園地	霧ヶ峰自然保護センター

季節	所要時間	名称	内容	起点	コース	終点
通年	1泊2日 ～ 3泊4日	霧ヶ峰を心から愛する人を対象にした特別企画	霧ヶ峰の自然と文化を楽しむゆったりプラン 集い・フォーラム (霧ヶ峰に関する講演、音楽リサイタル、絵画・写真展等と交流会) 季節に応じた霧ヶ峰逍遥(半日～1日で霧ヶ峰の穴場等を訪ねる) の組合せ	集い・フォーラムの開催場所や周辺の宿泊施設	季節や実施内容に応じ様々なコーディネート可能 (例) 「里への道」 「街道への道」 「遺跡への道」等をたどる	集い・フォーラムの開催場所や周辺の宿泊施設
夏	1泊2日	昭和20年代のキャンプ体験	昭和20年代に地元の学校で行われていた霧ヶ峰キャンプを徒歩で追体験する。	上諏訪駅	上諏訪駅～元町～角間新田～強清水キャンプ場(泊) 強清水キャンプ場～八島ヶ原湿原	-

【参加・体験する】

霧ヶ峰と出会う

季節	所要時間	名称	内容	起点	コース	終点
春	～3時間	草原景観保全活動(火入れ)	諏訪市で平成17年度から行っている火入れ活動に参加してもらい、草原景観の成立(天然自然にできたわけではなく、長年にわたり諏訪地域の人々が関わって作り上げたものである)と地域の人の思いに触れる。	霧の駅駐車場	霧ヶ峰の内諏訪市区域	起点に同じ
秋	～3時間	草原景観保全活動(雑木処理)	諏訪市で平成13年度から行っている雑木処理活動に参加してもらい、草原景観の成立(天然自然にできたわけではなく、長年にわたり諏訪地域の人々が関わって作り上げたものである)と地域の人の思いに触れる。	霧の駅駐車場	霧ヶ峰の内諏訪市区域	起点に同じ
春・夏	～3時間	草原景観保全活動(外来植物除去、ゴミ拾い)	草原景観を脅かすもの(外来植物やゴミなど)を取り除くための活動を行う。外来植物除去については、植物の専門家に前後で解説をしてもらい、作業することの意義について理解してもらう。	駐車場がある場所	車道沿い、遊歩道沿い(場所指定なし)	起点に同じ

霧ヶ峰に分け入る

季節	所要時間	名称	内容	起点	コース	終点
春・夏・秋	～6時間	巡回とパトロール	簡単な研修を受けたあと、巡回とパトロールを実際に行ってもらい、霧ヶ峰が抱える問題や現状などを知ってもらう。	霧ヶ峰自然保護センター	園地～車山肩～車山～車山乗越～蝶々深山～物見石～八島ヶ原湿原～ゴマ石山～園地	起点に同じ

季節	所要時間	名称	内容	起点	コース	終点
秋	～ 6時間	草刈作業	昭和30年頃まで田畑の肥料や牛馬の飼料として使われていた霧ヶ峰の草を実際に刈り取り、当時の人々の暮らしを知るとともに、草原景観の維持に寄与する。	-	-	-
秋	～ 6時間	防火帯作り	火入れの規模に比例して作業量が増加する防火帯作りについて、前年の秋に広く参加者を募り作業を実施する。	-	-	-
春・夏・秋	～ 6時間	森林保全活動	霧ヶ峰地域にある担い手の少ない人工林の整備保全体験をしてもらう。	-	-	-
春・夏・秋	～ 6時間	公園施設修繕	3,000ha にわたる霧ヶ峰の公園施設の整備・修繕などに参加し、現状を知ってもらう。	-	-	-

霧ヶ峰を極める

季節	所要時間	名称	内容	起点	コース	終点
春	1泊2日	霧ヶ峰草原景観維持合宿(火入れ準備及び火入れ作業)	将来的に霧ヶ峰を統括して管理する公園管理団体が設立された場合、草原景観を維持する作業である火入れ作業及び延焼を防ぐための準備作業を参加者を広く募り、牧野農業協同組合、地元市町等と共同で実施する。 従来実施していた範囲より大規模に行う。 なお、宿泊が伴うため、霧ヶ峰地域にある宿泊施設との協力が不可欠である。	-	-	-
秋	1泊2日	霧ヶ峰草原景観維持合宿(雑木処理及び草刈作業)	将来的に霧ヶ峰を統括して管理する公園管理団体が設立された場合、草原景観を維持する作業である雑木処理及び草刈を参加者を広く募り、牧野農業協同組合、地元市町等と共同で実施する。 従来実施していた範囲より大規模に行う。 なお、宿泊が伴うため、霧ヶ峰地域にある宿泊施設との協力が不可欠である。	-	-	-
通年	延べ数日間	インタープリター養成講座	霧ヶ峰等で将来的にインタープリテーションを行えるインタープリターを養成するための講座を実施する。	-	-	-

《参考 1》 エコツアーの所要時間に応じた実施項目の例

所要時間	想定される内容	組み合わせ
～ 2 時間	ガイドウォーク（八島、園地・忘れ路の丘） ビジターセンターでの座学 日の出・日没観察（例：車山、車山肩） 湿原周回植物観察会（例：踊場、八島） ナイトウォーク（強清水、八島） 歴史ウォーク（例：旧御射山） クロスカントリースキー体験（例：強清水）	・座学は他のプログラムと組み合わせやすい ・夜のプログラムは宿泊と組み合わせやすい
2 ～ 4 時間 （半日）	草原景観保全活動 ビジターセンター等での座学 歴史ウォーク（例：黒曜石の道） スノーシューウォーク トレッキング（例：車山肩～八島）	・トレッキングは様々なコース・プログラムが考えられる
4 ～ 8 時間 （1日）	クロスカントリースキーツアー 霧ヶ峰ウォークラリー 歴史ウォーク（例：中仙道と和田峠、街道への道、里への道）	
1泊2日	ロングトレイルウォーク （例：美ヶ原～和田峠～大門峠） 霧ヶ峰キャンプ体験 （例：キャンプ+トレッキング+学習会）	

上記表にあるコースを組み合わせることで、参加者の日程（半日、1日、1泊2日、2泊3日等々）にあわせたプログラムの提供ができる。

《参考 2》 実施時期に応じた実施項目の例

実施時期	想定される内容
早春（4月末～5月中旬）	早春の花めぐり ガイドウォーク 草原景観保全活動（火入れ） 歴史ウォーク ロングトレイルウォーク 湿原周回植物観察会 ビジターセンター等での座学
春（5月下旬～6月下旬）	新緑を楽しむトレッキング 歴史ウォーク ガイドウォーク 湿原周回植物観察会 霧ヶ峰ウォークラリー ロングトレイルウォーク ビジターセンター等での座学 草原景観保全活動（外来植物除去、ゴミ拾い） 森林保全活動
夏（7月上旬～8月下旬）	トレッキング（各種） ガイドウォーク 霧ヶ峰ウォークラリー ロングトレイルウォーク 霧ヶ峰キャンプ体験 ナイトウォーク 星空観察会 湿原周回植物観察会 草原景観保全活動（外来植物除去、ゴミ拾い） 森林保全活動 ビジターセンター等での座学 歴史ウォーク
秋（9月上旬～10月下旬）	歴史ウォーク 日の出・日没観察会 湿原周回植物観察会 トレッキング（草紅葉狩り等） ロングトレイルウォーク 草原景観保全活動（雑木処理、草刈り、外来植物除去、ゴミ拾い） 森林保全活動 ビジターセンター等での座学
冬（11月上旬～12月下旬）	トレッキング（湿原ウォーク等） 歴史ウォーク（黒曜石ウォーク） 草原景観保全活動（雑木処理） ビジターセンター等での座学 霧ヶ峰の道をたどる（和田峠～八島、八島～男女倉等）
冬（1月上旬～3月下旬）	スノーシューガイドウォーク クロスカントリースキー体験 クロスカントリースキーツアー 冬の八島ヶ原湿原めぐり ビジターセンター等での座学

【参考 3】 関係者との連携の例

関係者	連携内容	備考
牧野農業協同組合・財産区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 草原景観保全活動参加時の連携 ・ 語り部として昔の話を聞く等 	
宿泊業者・観光業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宿泊者へのエコツアー情報の提供など ・ エコツアー主催 ・ 実施時の運送手段等の提供 ・ 情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宿泊・観光業者とエコツアー実施団体との連携は不可欠 ・ エコツアーの有力な主催者候補でもある
学校・博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境教育、自然学習等との連携 ・ 専門知識を持つ教員・学芸員の派遣 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供たちの霧ヶ峰への関心を高めるのに必要 ・ 景観や動植物以外の話をするには不可欠
ビジターセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・ エコツアーの拠点 ・ 情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 将来的に中核となるビジターセンターが霧ヶ峰のエコツアーに関する有力な主催者となりうる ・ 将来的に総合的な情報提供・受け入れの窓口となることが考えられる

【ビジターセンターとその周辺の空間を使って提供するプログラムの例】

霧ヶ峰の自然・歴史と魅力を多くの人に知ってもらうためのガイドウォーク

(併せて、本格的なエコツアーへの誘い)

お茶会(霧ヶ峰の水でお茶をたてる)

「お休み処」の提供

屋外用のリラックスチェアやハンモックの提供

《参考 4》 ストーリー性を持たせたプログラムの例

(1) 人の営みと生きものの躍動を感じる（類似例：霧ヶ峰自然保護センター）

ア 目的

- ・春まだ浅い霧ヶ峰において、草原景観保全活動に参加することで草原の成り立ちを理解するとともに、そこに生きる生物を知る。

イ 内容

- ・諏訪市で実施している火入れに参加し、終了後ザゼンソウ観察などを行う。

ウ 所要時間

- ・火入れ... 2 時間、観察... 1 時間 全 3 時間（半日）

エ 対象者

- ・特に定めず（子供は対象外）

オ 実施時期

- ・諏訪市の火入れ実施日に同じ。

(2) 霧ヶ峰をまるごと楽しむ

ア 目的

- ・一番日が長い夏期において、霧ヶ峰をまるごと楽しむ。

イ 内容

- ・ナイトウォーク
- ・早朝バードウォッチング
- ・霧ヶ峰を横断するコースのガイド付きトレッキング（草花等の解説付き）
- ・霧ヶ峰に関する座学

等行い、霧ヶ峰をまるごと楽しむ。

ウ 所要時間

- ・ナイトウォーク... 2 時間
- ・早朝バードウォッチング... 2 時間
- ・ガイド付きトレッキング... 3 時間
- ・座学... 1 時間程度 （1泊2日）

エ 対象者

- ・特に定めず（親子連れ中心）

オ 実施時期

- ・ニッコウキスゲ盛期及びお盆を除く夏期

(3) 歴史ウォーク（幕末編）

ア 目的

- ・自然との関わりだけでなく、歴史や人文などについて知ることで、霧ヶ峰の奥深さを感じる。

イ 内容

- ・紅葉の時期に中仙道随一の難所和田峠を中心に歩き、皇女和宮が降嫁の際通過した状況や、水戸天狗党と松本・高島両藩との間で戦われた和田峠の戦いを専門家から話を聞く。

ウ 所要時間

- ・5～6時間程度（1日）

エ 対象者

- ・特に定めず

オ 実施時期

- ・9～10月（紅葉の時期）

(4) 歴史ウォーク（縄文編）

ア 目的

- ・日本で数少ない黒曜石の産地である男女倉付近及び黒曜石を中心とした交易の道をたどり、歴史を知るとともに過去と現在とのつながりを感じる。

イ 内容

- ・長和町の黒曜石ミュージアムで黒曜石と縄文文化について話を聞いた後、ブランシュたかやまスキー場方面より大笹峰～北の耳～ゼブラ山～八島ヶ原湿原を歩き、縄文人の歩いた道をたどる。

ウ 所要時間

- ・黒曜石ミュージアム... 1時間
- ・大笹峰～八島ヶ原湿原 ... 3～4時間程度（1日）

エ 対象者 特に定めず

オ 実施時期 無雪期（4～11月）

(5) 冬の霧ヶ峰を知る

ア 目的

- ・冬の霧ヶ峰を歩き、夏とは違った世界を体感する。

イ 内容

- ・スノーシューで霧ヶ峰を歩き、冬ならではの風景や冬に確認できる鳥類を観察する。
(・冬の日没や日の出を見るツアーを併催すれば宿泊込みも可)

ウ 所要時間

- ・3～5時間程度（半日～1日）

エ 対象者

- ・特に定めず

オ 実施時期

- ・降雪期（1～3月）

(6) 霧ヶ峰ウォークラリー

ア 目的

- ・霧ヶ峰をガイドなしで歩き、考えて楽しむ。

イ 内容

- ・霧ヶ峰をオリエンテーリング形式で自由に歩いてもらうとともに、霧ヶ峰の各地にチェックポイントを設け、霧ヶ峰に関するクイズなどを出す。

(前日にミーティング・前夜祭などを併催すれば宿泊も可)

ウ 所要時間

- ・4～6時間程度 (1日)

エ 対象者 特に定めず

オ 実施時期

- ・7～9月

(7) 酒と霧ヶ峰 (霧ヶ峰自然保護センターにより実施済み)

ア 目的

- ・諏訪市内の酒蔵と共同し、毎年2回行われる「呑みあるき」の翌日に水源地である霧ヶ峰を歩いてもらうことで、霧ヶ峰の保全が人間にも必要なことであることを知ってもらう。

イ 内容

- ・10月(と3月)に行われる「上諏訪街道呑みあるき」の翌日に霧ヶ峰の水源地(八島ヶ原湿原、観音沢、踊場湿原等)を歩くとともに、水と水を生み出す環境を守ることの大切さを知る。

ウ 所要時間

- ・2～3時間(半日)

エ 対象者

- ・成人

オ 実施時期

- ・10月第1週の日曜日

(8) 調査及び保全管理作業体験

ア 目的

- ・霧ヶ峰で行われている様々な調査や草原景観保全管理作業に参加し体験することで、実施することの意味と苦労を知ってもらい、理解を深めてもらう。

イ 内容

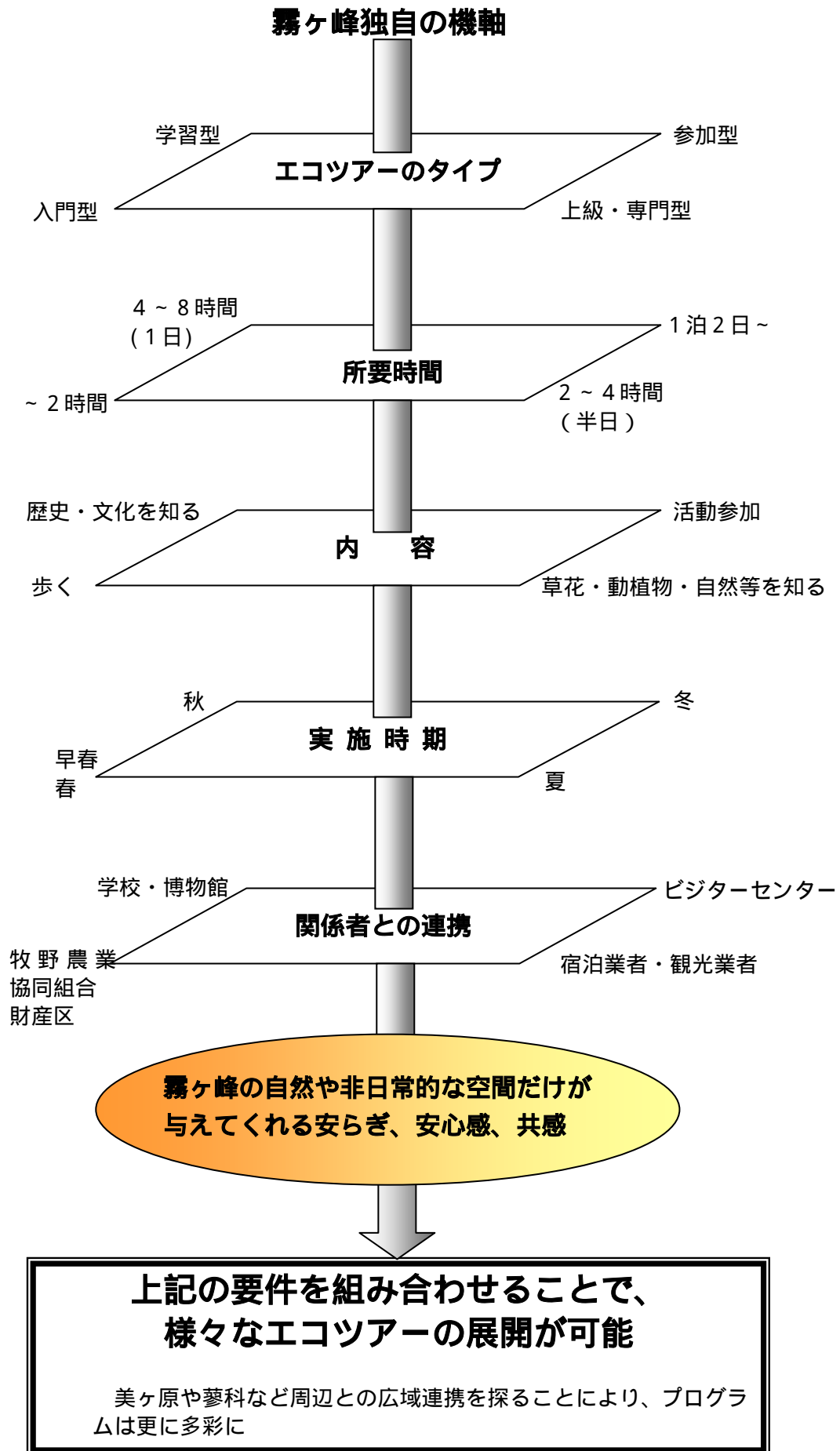
- ・長野県環境保全研究所で行っているライトセンサス調査、信州大学で行っているニホンジカの動向調査等への協力
- ・諏訪市が4月下旬～5月上旬に実施する火入れ作業及び11月に実施する雑木処理への参加
- ・霧ヶ峰に係る団体が実施している外来種除去やごみ拾い等への参加

ウ 所要時間 各作業により異なる。

エ 対象者 特に定めず

オ 実施時期 各作業実施日に同じ

【参考 5】 エコツアーの様々なかたち



(6) エコツアーの実施体制

エコツアー実施団体やインタープリターの活動を支援するため、霧ヶ峰地域として整備すべきエコツアー実施体制について 136 ページと 137 ページにまとめた。

項目としては、

霧ヶ峰におけるエコツアー受入れ体制の整備

エコツアー参加者とエコツアー実施団体との間のコーディネート

エコツアー実施団体間の連携

宿泊施設との連携

参加・体験型プログラム実施のための諸団体との連携

インタープリターの募集、養成

相互研鑽、質の向上

エコツアーの健全な発展につながる料金設定

の 8 項目である。

これらの項目に関し、早期に本格的な体制整備が行われるのが望ましいところであるが、それを中心になって推進する団体が存在しない現状から、当面の対応と組織整備がなされた後の対応に分けて検討した。

本格的対応の事務局を務める団体としては、公園管理団体を想定し、公園管理団体の設立に関しては、「2 霧ヶ峰保全再生計画」の 58 ページ以下に記述されている。

また、エコツアーの健全な発展のために「良質なエコツアープログラム及びインタープリテーションを提供し、それに見合った対価を得ながら」霧ヶ峰のエコツアーを展開することが必要であるとの認識は、現段階から共有し、これをもとに各団体が適切な料金設定を行っていくことが望まれる。

エコツアー実施体制の整備

当面は、3つのビジターセンターの連携組織である霧ヶ峰ビジターセンター協議会が適宜サポートすることを基本にする。
本格的な展開として、公園管理団体の設立及びエコツアー実施団体等の連絡会議設置に基づく体制確立と事業実施を検討する。

項 目	当 面 の 対 応	公園管理団体設立後の本格的対応
霧ヶ峰におけるエコツアー受入れ体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> * 平成 21 年度「地方の元気再生事業」の事業提案に「霧ヶ峰ポータルサイト開設」を盛り込み、ポータルサイトにおいてエコツアー実施団体の紹介や各団体ホームページへのリンクを行うことを検討する。 * ポータルサイトの運営は、ポータルサイト参加者の協力を得ながら、3つのビジターセンターの連携組織である霧ヶ峰ビジターセンター協議会を中心に行うことを想定する。 また、霧ヶ峰ビジターセンター協議会は、霧ヶ峰で実施されるエコツアーの情報収集を行いポータルサイト上で紹介するとともに、各ビジターセンターが可能な範囲でエコツアーに関する問い合わせに応じられるようにする。 * 霧ヶ峰“彩り草原空間”構築プロジェクトの本格展開の事務局を担う団体として、公園管理団体（公益法人、NPO法人等）設立の検討を行う。 なお、公園管理団体の設立については、「草原」「湿原」「樹叢」保全再生部会において検討した。 	<ul style="list-style-type: none"> * 公園管理団体が設立されれば、そこにおいて <ul style="list-style-type: none"> ・ 霧ヶ峰でエコツアーを実施する団体の相互連携 ・ 霧ヶ峰のエコツアーの情報収集 ・ ポータルサイトの運営 ・ 霧ヶ峰のエコツアーの総合的情報提供 ・ 各ビジターセンターの連携 等 を行う。
エコツアー参加者とエコツアー実施団体との間のコーディネート	<p>エコツアー参加者の多様なニーズに対応し、満足と感動を与えるためには、参加希望者の求めるものを聴き、霧ヶ峰で提供されているプログラムと参加希望者のコーディネートをして、最も適したプログラムへの参加を提案することも必要になる。</p> <p>そこで 霧ヶ峰でエコツアーを実施する団体が個別に予約を受け付けるものであるが、それを次の対応によりサポートする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ポータルサイトにおける情報提供 ・ 各ビジターセンターでの情報提供 	<p>エコツアーの申込み受けを一本化するものではないが、公園管理団体が総合情報窓口となり、そこに問合せがあった場合は、適切なコーディネートができるよう体制を整備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エコツアー実施団体、ガイド団体、宿泊施設、観光協会、運送関連業者、自治体等で構成する連絡会議（以下「連絡会議」という。）においてコーディネート体制を協議、確立する。 ・ ポータルサイトにおける情報提供を行う。 ・ エコツアー参加希望者から問い合わせがあった場合は、公園管理団体がそのニーズに応じて該当プログラムを紹介するなどのコーディネートを行う。
エコツアー実施団体間の連携	霧ヶ峰ビジターセンター協議会が、エコツアー実施団体の情報共有のサポートを行う。	連絡会議を設立し、相互連携を図る。その事務局は、公園管理団体が務める。
宿泊施設との連携	霧ヶ峰ビジターセンター協議会が収集し、提供するエコツアーに関する情報を、霧ヶ峰自然環境保全協議会等を通じて、宿泊施設、観光協会に提供し、宿泊施設の集客に役立ててもらおう。	連絡会議を通じ、連携しながら霧ヶ峰のエコツアーを推進することにより、霧ヶ峰の魅力を高めるとともに、利用客の滞在日数を増加させる取組みを進める。なお、宿泊施設とエコツアー実施団体間の顧客紹介や利用客送迎の仕組みなどについては、連絡会議で検討する。
参加・体験型プログラム実施のための諸団体との連携	雑木処理、火入れ、外来種除去活動等を実施する団体（又はその事務局）が、エコツアープログラムでの参加を呼びかけようとするときは、霧ヶ峰自然環境保全協議会を通じ、協議会構成団体へ情報提供を行う。	連絡会議の事務局である公園管理団体が、雑木処理、火入れ、外来種除去活動等を実施する団体（又はその事務局）からの要請に基づき、連絡会議構成団体への情報提供とプログラム実施を呼びかける。

項 目	当 面 の 対 応	公 園 管 理 団 体 設 立 後 の 対 応
<p>インタープリターの募集、養成</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 平成 21 年度「地方の元気再生事業」の事業提案に「インタープリター養成講座、エコツアーリズム講座の実施」を盛り込む。事業が採択されれば、平成 20 年度のインタープリター発掘型エコツアーの参加者や霧ヶ峰で事業を行う人たちなどに参加を呼びかけ、インタープリター養成につなげる。「霧ヶ峰の人みんながインタープリター」を目指す。 * エコツアー実施団体がインタープリターの募集を行う際は、必要に応じて、霧ヶ峰ビジターセンター協議会が、インタープリター養成講座受講者に対し、インタープリター募集情報の提供を行う。 <p>また、霧ヶ峰ポータルサイトにおいて募集情報の提供を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 霧ヶ峰で活動するインタープリターなどが講師を務め、連絡会議が継続的にインタープリターの養成、発掘を行っていく。 * 連絡会議がポータルサイト、ビジターセンター等を通じ、インタープリター募集情報及び登録インタープリターの情報の提供を行う。
<p>相互研鑽、質の向上</p>	<p>エコツアー実施団体それぞれの創意工夫、切磋琢磨を基本とするが、各団体の取組みを支援するため次のような対応を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 平成 21 年度「地方の元気再生事業」の事業提案が採択された場合は、インタープリター養成講座、エコツアーリズム講座を研鑽の場とする。 * 霧ヶ峰ビジターセンター協議会が各団体からの求めに応じ、各ビジターセンターが有する霧ヶ峰の自然・歴史等に関する情報を提供する。 * 霧ヶ峰自然環境保全協議会で検討したコース・プログラム例を、各団体が独自の工夫を加えて実施することにより、プログラムの幅の拡大、魅力向上に活用する。 	<p>エコツアー実施団体それぞれの創意工夫、切磋琢磨を基本とするが、各団体の取組みを支援するため次のような対応を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 連絡会議が継続的にインタープリターの研鑽の場としての講習会等を開催する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全管理等については、エコツアーの実施に必要不可欠のものとして全インタープリターの参加、修了証の交付を前提に実施する。 ・ 霧ヶ峰の基礎知識等に関する講座は、ビジターセンター職員、研究者等を講師に迎え、随時開催する。 * インタープリテーションのネタの発掘・調査を連絡会議が行い、情報を共有する。
<p>エコツアーの健全な発展につながる料金設定</p>	<p>エコツアーの料金は各実施団体が定めるものであるが、良質なエコツアープログラム及びインタープリテーションを提供し、それに見合った対価を得ながら霧ヶ峰のエコツアーリズムの健全な発展を目指すことを各団体が共通認識とする。</p> <p>当面、公共団体と民間団体の価格格差をなくし、対等な競争関係とするため、「霧ヶ峰保全協力金」の導入を検討し、現状では保険料相当額だけで参加できる公共団体のガイドツアーの是正を図る。</p> <p>なお、保全協力金を含む霧ヶ峰における利用者負担のあり方全般については、“彩り草原空間”形成・施設整備部会において検討した。</p>	

(7) 情報提供・情報発信体制

霧ヶ峰のエコツアーの推進のためには、個別のエコツアー実施団体やインタープリターの情報発信、営業等のほかに、霧ヶ峰全体としてエコツアーに関する情報発信を統一的・効果的に行うことやマスコミ対策を講じていくこと、また、霧ヶ峰の現地においてエコツアーや観光情報を含めた霧ヶ峰の総合的な情報提供を行うビジターセンターの体制強化等を実施する必要がある。

139 ページと 140 ページに、

霧ヶ峰のエコツアーの全国発信のための基盤整備

営業

マスコミ戦略

ビジターセンターのあり方

の 4 項目について記載した。

なお、これらについても「(6)エコツアーの実施体制」と同様、当面の対応と事務局としての公園管理団体設立後の対応とに分けて検討した。

情報提供、情報発信体制の整備

当面は、ポータルサイトの開設とそれを通じた情報発信及び既存組織での営業を基本に検討する。

本格的な展開として、公園管理団体の設立及びエコツアー実施団体等の連絡会議設置に基づく情報提供・発信の強化、体制確立を検討する。

【霧ヶ峰のエコツアーの全国発信のための基盤整備】

当面の対応

- * 平成 21 年度「地方の元気再生事業」の事業提案に盛り込み、ポータルサイト開設を検討する。

このポータルサイトは、霧ヶ峰の公式ホームページともなるものであることから、エコツアーに関する情報のみならず、多くの人に霧ヶ峰の自然・歴史を理解してもらい、保全再生や施設整備への協力を拡大するため、霧ヶ峰に関する総合的な情報提供を行うものとする。

- * ポータルサイトの運営は、ポータルサイト参加者の協力を得ながら、3つのビジターセンターの連携組織である霧ヶ峰ビジターセンター協議会を中心に行うことを想定する。

- * ポータルサイトでは、

- ・ 霧ヶ峰の魅力の紹介
- ・ 霧ヶ峰のエコツアーの特長の紹介
- ・ エコツアー実施団体の紹介や各団体ホームページへのリンク
- ・ 各団体のプログラムの紹介 等

を行う。

公園管理団体設立後の本格的対応

- * ポータルサイトの掲載情報を充実させ、ライブカメラ又はリアルタイムでの写真情報の提供、エコツアー参加者の声、お役立ち情報などを提供していく。

- * エコツアー実施団体、ガイド団体、宿泊施設、観光協会、運送関連業者、自治体等で構成する連絡会議（以下「連絡会議」という。）において、エコツアー参加者の反応を分析してプログラムの改善に活かしたり、クレームを受け付けたりする体制等を検討する。

【営業】

当面の対応

観光協会等が実施する営業に合わせて実施する。

公園管理団体設立後の本格的対応

個別のエコツアー実施団体や観光協会等が行う営業のほか、連絡会議においても旅行代理店等に対する営業を行い、霧ヶ峰のエコツアーの特長を的確に伝えながら、霧ヶ峰のエコツアーのブランドを確立する。

それに当たっては、旅行代理店販売員を対象に、霧ヶ峰のエコツアーを体験し、霧ヶ峰ファンになってもらうためのモニターツアーを併せて実施する。

【マスコミ戦略】

- * マスコミ露出機会を数多く確保するため、連絡会議でエコツアーの特別企画を行い、取材を促すとともに、個別団体の特別企画についても連絡会議がプレスリリースする。
- * 環境省主催の「エコツーリズム大賞」に挑戦するなどしながら、霧ヶ峰のエコツアーの全国における地位を高める。
- * 旅行雑誌の特集等には、連絡会議の事務局が恒常的に提案、情報提供を行う。

【ビジターセンターのあり方】

現状では、長野県霧ヶ峰自然保護センター及び八島ビジターセンターは、冬期間クローズしており、また、両センターは霧ヶ峰の自然環境保護を主眼にした普及啓発やパトロール等を目的としているため、エコツアー情報や観光情報を含めた霧ヶ峰の総合的な情報を、年間を通じて提供・発信する体制にはなっていない。

霧ヶ峰の情報発信を強化するため、霧ヶ峰関係者の間では、ビジターセンターの体制強化を望む声が多く聞かれる。

今後、ビジターセンターの体制強化を図り、年間を通じて霧ヶ峰に関する総合的な情報提供・発信を行っていくためには、霧ヶ峰の中核的ビジターセンターの運営を公園管理団体が行うことも検討していく必要がある。

公園管理団体は、霧ヶ峰の中核的ビジターセンターの運営を行うとともに、関係団体による連絡会議の事務局及び霧ヶ峰ビジターセンター協議会の事務局を務めることが想定される。

平成 21 年(2009 年) 2 月 策定

霧ヶ峰自然環境保全協議会

事務局 長野県諏訪地方事務所環境課

〒 392-8601 諏訪市上川一丁目 1644 - 10

電話 0266(57)2952 FAX 0266(57)2904

E-mail suwachi-kankyo@pref.nagano.jp

担当者 轟寛逸、中條忠明、高木雄二、久保武志、柄澤裕美